

餞の言葉

—— 信無くんば立たず ——

平成元年春三月卒業或いは修了なさる皆さん、おめでとうございます。元号も新たに、愈々若い皆さんの時代の到来です。この新しい平成時代を、どうぞ、学園五訓を基盤にして、素晴らしい時代社会の創造に、将来にわたって精進して頂きたいと思えます。

さて、昭和の時代は激動の時代でありました。私事にわたりますが、私は昭和元年（大正十五年）に生れ、その激動の時代を生きてきた者ですから、紛れもなく昭和時代の人間といってよいでしょう。皆さんよりも半世紀近くも古い人間ということになります。

餞　　の　　言　　葉
　　ところで、昭和の古い時代の人間である私を、平



平成4年度に行われた第1回スポーツ大会

成の新しい時代に生きていこうとする皆さんに比べてみますと、たしかに、私は、物質的には不自由な時代に生きてきたと思います。食べ物も着る物も粗末でしたし、それらを手に入れることも極めて困難な時代でした。しかし、そうした不自由な生活であったからこそ、かえって、勤労の尊さ、勤勉に生きることの大切さ、といった価値ある精神的なものを身につけたのではないかと思うのです。そして、そうした精神的なものが基盤となり力となって、今日の繁栄を生んだのだと思います。かつて訪日されたレーガン大統領が、戦後の日本経済のめざましい進展振りを賞賛して「これは、勤勉な日本人の美徳によるもの」とのメッセージを贈られたのですが、ここからも先の意味が理解できましょう。

ここにいう勤勉とか勤労は、勿論善美なる徳性のことですが、しかし、行為の目的を誤ると、善美のはずの徳性が、かえって非難を受ける悪徳ともなり得るのです。

昨秋のことですが、三原市にお住いのアメリカの方が、ある会合で「日本人は勤勉ですが、しかし、アメリカ人は正直です」とおっしゃったという新聞記事を読んだことがあります。そして、その記事に、私は少なからず衝撃を覚えたのでした。といいますのは、この方のお話しの中味は、「日本人は勤勉に働きますが、その目的はお金儲けのようです。そのためには、ときには自ずからを偽ってまでも働きます。しかし、アメリカ人は自ずからを偽りません、正直です」というようにも受け取ることができるからです。

たしかに、私たち日本人をして、エコノミックアニマルとか経済侵略者とかの批判はそのまま頂くわけにはいきませんが、しかし、働くことの目的が、お金儲けという方向に傾きつつあったことは認めなければならぬと思

います。といえますのは、昨春秋からのリクルート疑惑にも見られますように、日本の良識であるべき政官財界の人々の中に、お金に係わる不明朗さが噴出しており、ここからも、その傾向にあったことがわかるのです。

一体、人間が人間らしい生活を営む上で、最小限必要なものは何でしょうか。それは、衣食住を充たすに足る経済力、つまりお金ということだと思えます。お金が無ければ文化的生活はおろか、食べることも着ることもできないからです。ここからして、お金こそは、人間生活における最小限の必要条件といってもよからうと思えます。しかし、必要条件ということは、直ちに、お金に最高の価値があるということにはなりません。では、最高に価値のあるものとは何でしょうか。それは、嘘偽りのない正直な道徳的生き方ということだと思えます。嘘偽りのない正直な生き方とは、孔子の言葉を借りれば、信（まこと）の生き方ということです。『論語』に

信無くんば立たず
 というのがありますが、これは、信（まこと）の心が無かったならば、人間らしい生活は成り立たない、ということなのです。

こうして考えてきますと私たちは、目的を見誤ることなく五訓を基盤として、信（まこと）の社会を建設するため、共々精進しなければならぬと思えます。

お別れに当り、私は、先の「信無くんば立たず」の言葉を饒に贈りたいと思えます。それは、嘘偽りのない正直な生き方こそが、新時代に生きる最善の人の道だと思ふからです。ご多幸を祈りつつ。